

7月27日（水）に開催された実践研究部会での活動を紹介します。

今回の参加者のみなさん

【今年度初参加の先生方】

瀧田健司先生（神沢中）、阿比留慶治先生（山王中）
濱地光大先生（富士中）、丹羽良平先生（有松中）
井上将孝先生（笹島中）、小比賀正規先生（扇台中）
増田旬一郎先生（天神山中）、旦野智啓先生（北中）
高羽 幸さん（名古屋市科学館）

今年度初参加の先生が3名いらっしゃいました。



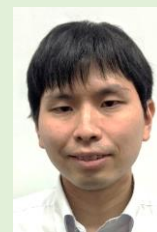
城山中

小林正嵩先生



桜田中

宇佐美偉之先生



白山中

佐藤行裕先生

授業作りアイデア

「『秋の授業公開』について、もし自分が授業者ならどのような工夫をするか。」という前回からの課題について、それぞれ持ち寄ったアイデアを発表しました。

有松中学校の丹羽良平先生から、「カリンバ」というオルゴールのルーツとされているアフリカの楽器の紹介がありました。金属のバーの長さによってのみ音の高さが変わるため、ブリッジを使って弦の長さを変えたり、弦の張りを変えたりして音を変えるモノコードよりも直感的に分かりやすい教材でした。



【カリンバを操作する様子】

全中理発表について

8月6日から東京で行われた第70回全国中学校理科教育研究会において、城山中学校の小林正嵩先生が「生徒自ら仮説を設定する授業の構築」というタイトルで発表されました。その研究について、紹介していただきました。

秋の授業公開について

秋の授業公開の授業者である扇台中学校の小比賀正規先生より、メスシリンダーを利用した音の高さの授業の提案がありました。メスシリンダーを使うことで気柱の長さに注目しやすいという利点があることが分かりました。

また、水の代わりに砂を入れてみたらどうなるかを試してみたところ、きれいな音では鳴りませんでした。ところが、メスシリンダーの内径と同じ円形の落とし蓋を紙で作り、砂の上にかぶせたところ、きれいに音が鳴ることが分かりました。様々な形の瓶で音を鳴らす実験も行いましたが、瓶の形が音に大きな影響を与えることも分かりました。

名理会 秋の公開授業

令和5年10月25日（水）午後 場所：扇台中学校 授業者：小比賀正規先生
実践単元：中1「単元3 身近な物理現象 2章 音の性質」